

MIRU2013 L^AT_EX 2_ε クラスファイルの使い方

画像 花子^{1,a)} 認識 太郎^{2,†1,b)} 理解 次郎^{2,c)}

1. はじめに

MIRU2013 用の pL^AT_EX 2_ε クラスファイル, miru2013j.cls の使い方を説明します。本クラスファイルは、アスキー版 pL^AT_EX 2_ε に基づいて作成しています。

2. 原稿の書き方

2.1 言語

使用言語は、日本語または英語です。

2.2 ページ数

最大ページ数は、2 ページです。超過したものは受け付けられません。

2.3 概要とキーワード

概要とキーワードは省略して下さい。

参考文献

- [1] (雑誌の場合) 著者名, “標題,” 雑誌名, 巻, 号, pp. を付けて始め - 終りのページ, 月 (英語) 年.
- [2] (雑誌例 1) 山上一郎, 山下二郎, “パラメトリック増幅器,” 信学論 (B), vol. J62-B, no. 1, pp. 20–27, Jan. 1979.
- [3] (雑誌例 2) W. Rice, A. C. Wine, and B. D. Grain, diffusion of impurities during epitaxy, Proc. IEEE, vol. 52, no. 3, pp. 284–290, March 1964.
- [4] (著書, 編書の場合) 著者名, 書名, 編者名, 発行所, 発行都市名, 発行年.
- [5] (著書, 編書例 1) 山田太郎, 移動通信, 木村次郎 (編), pp. 21–41, (社) 電子情報通信学会, 東京, 1989.
- [6] (著書, 編書例 2) H. Tong, Nonlinear Time Series: A Dynamical System Approach, J. B. Elsner, ed., Oxford University Press, Oxford, 1990.
- [7] (著書の一部を引用する場合) 著者名, “標題,” 書名, 編者名, 章番号または pp. を付けて始め - 終りのページ, 発行所, 発行都市名, 発行年.
- [8] (著書の一部引用例 1) 山田太郎, “周波数の有効利用,” 移動通信, 木村次郎 (編), pp. 21–41, (社) 電子情報通

信学会, 1989.

- [9] (著書の一部引用例 2) H. K. Hartline, A. B. Smith, and F. Ratliff, Inhibitory interaction in the retina, in Handbook of Sensory Physiology, ed. M. G. F. Fuortes, pp. 381–390, Springer-Verlag, Berlin.
- [10] (国際会議の場合) 著者名, “表題,” 会議名, no. を付けて論文番号, pp. を付けて始め - 終りのページ, 都市名, 国名, 月 (英語) 年.
- [11] (国際会議例) Y. Yamamoto, S. Machida, and K. Igeta, “Micro-cavity semiconductors with enhanced spontaneous emission,” Proc. 16th European Conf. on Opt. Commun., no. MoF4.6, pp. 3–13, Amsterdam, The Netherlands, Sept.1990.
- [12] (国内大会, 研究会論文集の場合) 著者名, “標題,” 学会論文集名, 分冊または号, no. を付けて論文番号, pp. を付けて始め - 終りのページ, 月 (英語) 年.
- [13] (国内大会, 研究会論文集例) 川上三郎, 川口四郎, “紫外域半導体レーザ,” 1995 信学全大, 分冊 2, no. SB2-1, pp. 20–21, Sept.1995.

¹ 第一大学工学部 〒105-0123 東京都港区山田 1-2-3

² 大阪株式会社開発部 〒565-0456 大阪府吹田市河田 4-5-6

^{†1} 現在, 第二大学情報学部 〒565-0456 愛知県名古屋市中区栄 7-8-9

^{a)} hanako@gazo.ac.jp

^{b)} taro@ninshiki.co.jp

^{c)} jiro@rikai.co.jp